

# ベネズエラ

2021年9月2日

海外調査部・カラカス事務所

2020年のベネズエラ経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に加えガソリンなど燃料不足が響き、前年に引き続き大幅に後退した。マドゥロ政権は同年12月の国民議会選挙で、それまで反政府側が唯一権力を行使できていた同議会でも多数派を占める結果となり、権力基盤を一層固めた。米国の経済制裁により原油の生産、輸出はさらに困難となった。

## ■大幅なマイナス成長が続く

IMFの統計によると、2020年の実質GDP成長率はマイナス30.0%と前年のマイナス35.0%に続き大幅に減退した。2014年から7年連続のマイナス成長となった。また、同統計によると2020年の1人当たりGDPは1,691ドルとなり、10年前の約15%の水準にまで減少した。基幹産業である石油関連では引き続き米国から科せられた国営石油公社（PDVSA）などに対する経済制裁措置により、関連商品の自由な取引が行えない状況が続いた。このため、外貨準備高は前年末の66億3,000万ドルから2020年末は63億6,400万ドルとさらに減少した。新型コロナ感染拡大の影響で2020年6月より、活動日と隔離日を原則7日ごとに繰り返す措置がとられ、これがさらなる景気後退を招いた。ベネズエラ中央銀行によると、2020年の消費者物価上昇率は2,959.8%だった。国内経済が停滞した事で、前年に記録した9,585.5%からは沈静化した。

## ■燃料不足が新型コロナと並ぶ経済活動の足かせに

新型コロナの感染拡大と並んで経済活動の足を引っ張ったのは、前年から続くガソリン供給不足に加え、国内産品の物流に欠かせないディーゼル油の供給が2020年後半から滞り始めたことだ。国内にある製油施設の能力低下と経済制裁により輸入元が制限されていることが原因だ。

2020年6月には、ガソリンを1リットル当たり5,000ボリバルまたは0.5ドルで販売する新燃料制度が開始され、「水より安い」といわれたベネズエラのガソリン価格は過去のものとなった。また、ディーゼル油不足で特に農畜産産品

表1 ベネズエラの品目別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2019年		2020年		2019年		2020年 (1~10月)		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
鉄鋼	131	98	44.3	△ 25.1	ボイラーおよび機械類、同部品	346	134	14.0	△ 51.9
魚ならびに甲殻類、軟体動物	282	52	23.6	△ 81.5	電気機器、音響機器、テレビ等	157	97	10.2	△ 28.8
無機化学品	0	22	10.1	6,288.6	穀物	203	85	8.9	△ 50.3
アルミニウム	1	12	5.6	1,141.1	穀粉、加工穀物	58	64	6.7	35.6
鉱物性燃料	11	5	2.3	△ 55.3	自動車・同部品	68	52	5.4	△ 0.7
電気機器	11	4	1.9	△ 60.1	動植物性油脂	71	50	5.2	△ 15.4
銅およびその製品	0	4	1.8	8,943.7	糖類および砂糖菓子	71	45	4.7	64.6
塩、硫黄、土石類等	2	3	1.4	58.0	調整食料品・飲料	47	37	3.9	△ 5.9
有機化学品	57	3	1.2	△ 95.4	プラスチックおよび同製品	44	35	3.7	△ 4.0
機械類	5	2	0.9	△ 65.3	鉄鋼製品	54	29	3.1	△ 40.3
合計 (その他含む)	672	221	100.0	△ 67.1	合計 (その他含む)	2,147	954	100.0	△ 45.4

[注] 輸出は非石油部門のみ。輸入の伸び率は2019年1~10月の実績をもとに算出。

[出所] SENIAT (Global Trade Atlas)

の出荷が困難となり、地方経済にも打撃を与えた。2021年も引き続きディーゼル油不足は深刻さを増しており、農業団体連合会 FEDEAGRO は同年 5 月、燃料不足により農業生産は 1950 年代のレベルまで後退したと発表している。

国内にあるカルドン、エル・パリート、アムアイの製油施設では長年の投資やメンテナンスの不足から事故や不具合などが多発しており、ガソリン、ディーゼル油、ナフ

サといった石油製品の生産は安定していない。2021年 3 月時点の予想によると、国内ガソリン需要が日量 12~15 万バレルであるのに対し生産量は約 5 万バレル、ディーゼル油は需要 10 万バレルに対し生産が約 6 万 5,000 バレルと供給不足だ。こうした状況でも、キューバとの協定により石油製品の 4 割近くは同国に輸出されているとみられている。石油製品の供給はもっぱらイランからの輸入に頼る状況となっている。なお、イランは製品のほか石油製品の生産に必要な希釈材や、ベネズエラで産出されるオリノコ超重質油を通常の原油に改質するためのコンデンセートも供給する重要なパートナーとなっている。

## ■国会の掌握で権力基盤をより強化するマドゥロ政権

ベネズエラの議会は野党が多数を占める国民議会と、独裁色の強いニコラス・マドゥロ大統領が別途設置した制憲議会の 2 つが並立する状態が続いていた。国民議会においても、反マドゥロ派のリーダーとされるファン・グアイド氏とマドゥロ派のルイス・パラ氏がそれぞれ自らを正統な議長だと主張し、二分された状態となっていた。全国選挙評議会 (CNE) や司法を含むあらゆる国家権力をマドゥロ政権が実質的に掌握する状況で 12 月 6 日に国民議会選挙が行われたが、反政府派内で投票不参加が呼びかけられたこともあり、与党の圧勝となった。この結果、2021 年 1 月 5 日から 5 年間はマドゥロ政権が国民議会を掌握することとなり、反マドゥロ派は政権側に対し影響を唯一行使できた同議会で議席の多くを失うこととなった。マドゥロ大統領とグアイド氏は 8 月 13 日、ノルウェーの仲介によりメキシコで対話を行った。その上で、今後、ベネズエラで民主的な選挙が実施されるよう、両者間で覚書 (MOU) が締結された。引き続き両者間での対話は継続される。

## ■米国向けは原油ほかの輸出実績がほぼ皆無に

2020 年の石油部門以外の輸出 (通関ベース) は、2 億 2,100 万ドルだった。前年比で 3 分の 1 まで

表 2 ベネズエラの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位: 100 万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2019年		2020年			2019年		2020年 (1~10月)	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	67	90	40.6	33.8	ブラジル	308	212	22.2	△ 1.7
フランス	18	20	8.9	12.2	米国	477	180	18.8	△ 56.2
ポルトガル	6	16	7.3	159.9	中国	461	137	14.4	△ 67.1
ブラジル	15	13	5.8	△ 13.2	コロンビア	192	100	10.4	△ 21.2
米国	271	12	5.4	△ 95.6	ドイツ	23	70	7.3	220.8
スペイン	28	11	4.9	△ 61.7	パナマ	123	30	3.1	△ 54.6
オランダ	23	11	4.9	△ 53.7	メキシコ	165	29	3.0	△ 81.3
グアテマラ	0	7	3.3	2136.6	トルコ	49	23	2.5	△ 46.4
イタリア	17	6	2.7	△ 65.8	イタリア	30	21	2.2	△ 20.3
コロンビア	34	6	2.5	△ 83.5	スペイン	35	21	2.2	△ 19.1
アイルランド	3	4	1.7	26.5	ガイアナ	12	16	1.7	60.7
エクアドル	1	3	1.2	172.7	アルゼンチン	44	11	1.1	△ 70.8
インド	1	3	1.2	411.2	チリ	8	10	1.1	67.8
キューバ	2	2	1.1	11.7	日本	15	8	0.9	△ 39.9
韓国	2	2	1.0	15.5	エクアドル	13	6	0.7	△ 45.7
台湾	1	2	0.8	85.8	フランス	6	6	0.7	7.2
パナマ	3	2	0.8	△ 36.1	アラブ首長国連邦	8	6	0.6	△ 4.3
ベルギー	7	2	0.8	△ 76.3	ペルー	5	5	0.5	63.2
グアドループ (フランスの海外県)	0	2	0.8	19205.5	香港	9	5	0.5	△ 38.7
マルティニーク (フランスの海外県)	0	1	0.5	14811.5	ベルギー	3	4	0.4	83.8
合計 (その他含む)	672	221	100.0	△ 67.1	合計 (その他含む)	2147	954	100.0	△ 45.4

[注] 輸出は非石油部門のみ。輸入の伸び率は 2019 年 1~10 月の実績をもとに算出。  
[出所] SENIAT (Global Trade Atlas)

落ち込んだ。2019年も前年比で4分の1まで落ち込んでおり、減少に歯止めがかからない状況だ。品目別にみると、前年に急増したカニなど水産品は、前年比81.5%減の5,200万ドル。米国向けがほぼなくなり、大幅に減少した。全体の44.3%を占め最大の輸出品目となった鉄鋼は中国向けが中心で、9,800万ドルと25.1%減少した。一方、前年実績のなかった無機化学品のアルミナ（アルミニウム原料）が中国向けに2,200万ドル輸出され、金額ベースで3番目に多い輸出品となった。その他、アルミニウムも12倍に増加した。

国・地域別では、これまで常に最大の輸出市場だった米国向けが95.6%減少し、輸出額はわずか1,200万ドルとなった。輸入者が、米国の財務省外国資産管理局（OFAC）による経済制裁を警戒した結果が如実に表れている。中国向けは33.8%増の9,000万ドルで最大の輸出先となった。その3分の2を鉄鋼が占めている。

米国による経済制裁でベネズエラ産原油の引き取りが減少し、国内在庫が積み上がったことから原油生産は2020年7月には日量33万9,000バレル（OPEC予想）程度まで低下した。政府の発表では2020年の平均生産量は日量40万バレルで、同国の1930年代のレベルまで減少したことになる。なお、2021年5月には同53万1,000バレルまで回復している。

ベネズエラでは石油部門の通関統計については公表されておらず、2019年より国際収支ベースでも公表されていない。また、制裁回避のため間接取引や沖合での積み替えなども多く、輸出先の実態をつかむのは困難となっている。想定される仕向け先国のうち取得可能な輸入統計から、ベネズエラ産の原油・石油製品の輸入実績をジェトロが調べたところ、かつて最大の輸入国だった米国は、2019年1月にPDVSAとの取引を原則禁止したことから同年に激減したのち、2020年はほぼ皆無となった。米国に代わる出荷先として重要視されるアジア向けでは、リライアンス・インダストリーズが引き取るインドが23億4,100万ドルと最大だが、それでも前年比で約60%減少した。中国向けは前年に44億ドルの実績があったが、直接取引を停止しており中国側の統計には実績がない。欧州向けについては、ベネズエラで原油・ガス生産プロジェクトを行うスペインのレプソル、イタリアのエニが延滞債務の返済分および一部石油製品とのスワップ分として原油を受け取っているが、最大の輸入国であるスペインが2億7,100万ドルと前年比約70%減少したほか、他の欧州諸国も軒並み輸入実績がなくなり、イタリア向けのみが1億7,600万ドルとわずかに前年実績を上回っている。

表3 主要国・地域のベネズエラからの原油・石油製品輸入額

(単位: 100万ドル、%)

	2018年			2019年			2020年		
	輸入額			輸入額			輸入額		
	原油	石油製品		原油	石油製品		原油	石油製品	
北米									
米国	12,506	10,398	2,108	1,632	1,365	267	15	15	0
メキシコ	0	0	6	0	0	0	0	0	0
中南米									
ブラジル	27	0	27	0	0	0	0	0	0
ガイアナ	1	0	1	0	0	9	3	0	3
ドミニカ共和国	72	0	72	3	0	3	n.a.	n.a.	n.a.
コロンビア	1	0	1	0	0	0	0	0	0
欧州									
スペイン	231	232	0	819	819	0	271	271	0
スウェーデン	348	348	0	345	345	0	0	0	0
ドイツ	274	274	0	249	249	0	0	0	0
ベルギー	157	157	0	205	205	0	0	0	0
イタリア	27	27	0	144	144	0	176	176	0
オランダ	202	0	202	69	0	69	0	0	0
英国	44	44	0	23	23	0	n.a.	n.a.	n.a.
ギリシャ	0	0	0	0	0	0	16	16	0
アジア大洋州									
中国	7,044	6,977	67	4,484	4,424	60	0	0	0
インド	7,392	7,392	0	5,697	5,697	0	2,341	2,341	0
マレーシア		274	0	612	612	0	427	226	201
シンガポール	750	0	750	385	0	385	0	0	0
日本	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[注] ①各国統計局による、ベネズエラからの原油（HSコード2709）、石油製品（HSコード2710）輸入額。キューバなど統計が公表されない国については対象外とする。②国によって統計方法が異なるため、表内にCIF価格の輸入額、FOB価格の輸入額など混在する。

[出所] 各国税関データよりジェトロ作成

## ■ブラジルが最大の輸入先に

2020年1～10月の輸入（通関ベース）は、9億5,400万ドルと前年同期比45.4%減少した。機械類が1億3,400万ドルと半減したほか、発電機など電気機器も9,700万ドルと28.8%減少した。いずれも米国が最大の輸入先国だった。前年に大幅増加した小麦を中心とした穀物も8,500万ドルと半減した。国・地域別では米国、中国がそれぞれ56.2%減、67.1%減の大幅減少となり、砂糖、大豆油など農産品を中心に輸入するブラジルが2億1,200万ドルと最大の輸入先となった。

## ■日本の輸出は半減、輸入はメタノールが約30%増加

日本の貿易統計（通関ベース）によると、2020年のベネズエラ向け輸出は1,783万ドルと前年から半減した。品目別にみると最大の乗用車が813万ドルと33.8%減少した。自動車関連では二輪車が約3倍に増加したものの、貨物自動車やエンジン、部分品、タイヤなどが軒並み減少した。医療機器の輸出が急増しており、眼科用機器が主力となっている。

ベネズエラからの輸入は前年とほぼ同額の3,738万ドルとなった。品目別にみるとカカオ豆、アルミニウムインゴットなどが減少した一方、最大品目のメタノールが30.8%増の2,780万ドルと全体の74.4%を占めるに至った。なお原油の輸入実績は2018年以降みられていない。

表4 日本の対ベネズエラ主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2019年		2020年			2019年		2020年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
乗用車	12,288	8,132	45.6	△ 33.8	メタノール	21,247	27,800	74.4	30.8
ピストン式火花点火エンジン	4,767	2,757	15.5	△ 42.2	カカオ豆	12,000	6,871	18.4	△ 42.7
自動車用部分品および附属品	2,733	1,176	6.6	△ 57.0	アルミニウムインゴット	1,707	1,452	3.9	△ 15.0
二輪車	197	619	3.5	214.4	銅のくず	n.a.	469	1.3	n.a.
医療機器	15	589	3.3	3,867.8	冷凍タチウオ等冷凍魚	566	270	0.7	△ 52.3
ゴム製タイヤ (新品)	799	577	3.2	△ 27.8	ラム酒その他類似品	324	207	0.6	△ 36.1
貨物自動車	1,467	538	3.0	△ 63.3	冷凍魚フィレ	687	105	0.3	△ 84.7
発電機	113	339	1.9	200.5	ロブスター等冷凍甲殻類	41	83	0.2	103.4
エンジン部分品	392	310	1.7	△ 20.9	冷凍タコ等軟体動物	270	45	0.1	△ 83.5
ギヤボックスその他の変速機等	306	286	1.6	△ 6.5	チョコレート等ココア製品	n.a.	38	0.1	n.a.
合計 (その他含む)	35,578	17,833	100.0	△ 49.9	合計 (その他含む)	37,330	37,383	100.0	0.1

〔出所〕財務省「貿易統計」(通関ベース)

## 主要経済指標

	2018年	2019年	2020年
①人口：2,844万人 (2020年)			
②面積：91万6,445km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：1,691米ドル (2020年)			
④実質GDP成長率 (%)	△ 19.6	△ 35.0	△ 30.0
⑤消費者物価上昇率 (%)	130,060.2	9,585.5	2,959.8
⑥失業率 (%)	35.5	n.a.	n.a.
⑦貿易収支 (100万米ドル)	18,811	n.a.	n.a.
⑧経常収支 (100万米ドル)	8,613	5,352	△ 1,665
⑨外貨準備高 (100万米ドル)	8,837	6,630	6,364
⑩対外債務残高 (100万米ドル)	108,369	n.a.	n.a.
⑪為替レート (1米ドルにつき、ポリバル、期中平均)	44	13,298	335,029

〔注〕①③⑥⑦⑧⑩と④の2019年および2020年は推計値、⑦：国際収支ベース（財のみ）、⑨：マクロ安定化基金（FME）を含まず、⑪：2018年8月、10万分の1に切り下げるデノミを実施  
 〔出所〕①：国連、②：国家統計院（INE）、③④⑥：IMF、⑤⑦～⑪：ベネズエラ中央銀行

(お問い合わせ先)

海外調査部 米州課

ORB-latin@jetro.go.jp